

# 佐賀の林業

No. 624  
2009 春号

平成21年5月1日発行●四半期1回発行●第624号



県産木材利用公共施設 佐賀市富士町菖蒲公民館 平成20年11月竣工



モクリン

## 目次

みんなの林政	
「平成21年度森林・林業関係施策の概要」	2
人物紹介	
「鳥栖市 指導林家 牟田忠儀さん」	3
トピックス	
「佐賀県しいたけ品評会・展示即売会」	5
「林業経営講演会」	6
林業試験場だより	
「平成21年度 林業試験場の試験研究の取組」	8
現場の顔	
「太良町森林組合 富永 司さん」	9
頑張っています林業研究グループ	
「基山町林業研究会」	10
「林務関係職員の人事異動」	11
佐賀の木材市況：平成21年1月～3月	12
編集後記	12

※ さがのよか木を応援する「よかウッド」へは、<http://www.yoka-wood.jp> へアクセスしてください。

**みんなの  
林 政****平成21年度森林・林業関係施策の概要**

地球温暖化防止に貢献する森林の働きが注目されるなか、「森林は私達みんなの財産」を基本理念とする「新しい佐賀の森林づくりビジョン」に沿って、平成21年度においては、以下の森林・林業施策を展開します。

(総予算額 38億5千万円：対前年比103.4%)

**1. 環境を育む森林づくり**

水源のかん養や県土の保全、海を育むなど、森林がもつ多様な機能を将来にわたり発揮できるよう、「山・川・海を守る多様な森林づくり」を進め、森林施業に不可欠な路網整備を計画的に推進します。特に、健全な森林の育成に必要な間伐を、間伐材の利用促進を図りつつ推進します。

また、森林の現況等に応じた治山施設の設置や保安林の適切な管理、森林被害に対する防除対策を推進します。

**【特に重点的に取り組む課題】**

- ◇森林環境税を財源として、安全・安心な県民生活重視・環境優先の視点に立ち、荒廃森林を再生する「さかの森林再生事業」の推進
- ◇竹の侵入により荒廃したスギやヒノキなどの人工林を対象とした、竹の伐採・整備を行う「侵入竹林等緊急整備事業（経済対策）」の推進

**2. 県民協働**

効率的かつ安定的な林業経営を担い得る者を育成し、林業構造を確立するため、意欲ある林家や森林組合等の林業事業体の取組みを支援します。

さらに、森林所有者や林業事業体だけでなく、県民や公共団体がそれぞれの役割を果たしながら、「県民協働」により森林を支えるため、森林ボランティア団体による森林づくり活動を支援するとともに、森林環境教育等の森林の多様な利用を推進します。

**【特に重点的に取り組む課題】**

- ◇間伐等の森林整備を支援する「造林事業」や高性能林業機械の導入を支援する「間伐等森林整備促進対策事業」の推進
- ◇県民協働で森林づくりに取り組む「こだまの森林づくり」と、緑の県土づくり方針に基づき平坦地緑化に取り組む「緑豊かな里づくり」の推進

**3. 森林資源の持続的利用**

競争力のある品質の安定した県産乾燥木材の安定的な供給体制づくりや県民への木材利用についての理解促進を図ります。

また、山村地域の貴重な収入源である特用林産物について、生産体制の整備とともに、需要の拡大を図ります。

**【特に重点的に取り組む課題】**

- ◇県産木材の利用拡大による森林資源の循環利用を推進するため、木材の生産拡大と木材の需要拡大を一体的に進める「県産木材利用推進プロジェクト事業」の推進



【主要施策】

基本方向等		事業名	事業内容
環境を育む森林づくり	山・川・海を守る 多様な森林づくり ・水資源を守る森林整備 ・災害に強い森林整備 ・うるおいと安らぎのある森林・生命を育む森林整備等	さかの森林再生事業	県による環境林内の荒廃した人工林における強度の間伐、市町による公有林化、県民の皆さんからの提案公募事業等
		こだまの森林づくり整備事業	環境林における広葉樹の植栽や自然環境に配慮した森林づくり等のための県産広葉樹の生産促進等
		侵入竹林等緊急整備事業	森林の持つ多面的機能の維持増進と失業者の雇用を促進するための人工林に侵入した竹の整備
		治山事業	山腹崩壊、土石流・地すべり対策の実施や水源地域の整備、保安林改良等の総合的整備
		林道事業	林道等の開設・改良・舗装の実施及び助成
県民協働	県民による森林づくり	森林と緑の再生プロジェクト推進事業	森林ボランティアネットワークづくりの推進 森林・緑づくり体験イベント等の開催 企業の森林づくり活動支援
		緑の里づくり整備事業	ワークショップによる緑化活動の実践 地域住民等による緑化活動に対する支援
	森林所有者による管理	森林を守る交付金事業	意欲ある林業事業者等による施業・経営の集約化活動促進のための森林の現況調査等への支援
	森林所有者や森林組合等林業事業者による森林づくり	造林事業	植林、下刈り、間伐、枝打ち等の森林整備に対する助成
間伐等森林整備促進対策事業		効率的な間伐の推進と生産性向上のための高性能林業機械の導入に対する助成、条件不利な森林における間材	
公共団体による森林づくり	林業担い手育成確保対策事業	森林の適正な管理や林業経営の安定化を支える中核的な林業担い手（林業作業士）の養成	
森林資源の持続的利用	こだまの森林づくり整備事業（再掲）	環境林における広葉樹の植栽等	
	木材等森林資源の持続的利用	県産木材利用推進プロジェクト事業	低コスト間伐モデル地区の設定、県産乾燥木材の認証制度の推進、製材業による共同人工乾燥に対する助成等
	多様な森林資源の多角的利用	特用林産産地振興推進事業	特用林産物の生産・流通の円滑化と需要拡大のための技術交流会等の開催及び生産に必要な機械・施設の導入に関する助成

(森林整備課計画調整担当)



## 人物紹介

## 鳥栖市 指導林家 牟田忠儀さん (62)



牟田 忠儀さん (62)

鳥栖市の指導林家 牟田忠儀さんを紹介いたします。牟田さんは、鳥栖市河内地区内にある林業会社の社長をされ、河内地区周辺の山を主に森林整備をされておられます。先代からの林業一筋で、地域の森林整備に関わってきた実績もあり、市内の森林所有者からの信頼は厚く、多くの山主さんから山の手入れについて、相談や依頼があります。

指導林家になって8年、若い頃から林業に関わってこられた経験からその思いも人並みならないものを持っておられます。急激に変化した林業の状況を身をもって体験され、鳥栖の山の現況を憂え、「鳥栖の山をどうしたらいいか」というのが口癖です。

牟田さんの持論として、「素材の価格が今の価格より少しでも高ければどうにかやっていけるかもしれないが、こうも安ければ材を出して林業をやっているかどうか不安だ。それでも、森林所有者が山を持っている限りは守っていかねければならない。今は、鳥栖の森林所有者のために山の手入れを地道にやっっていこう」という考えを持っておられます。「鳥栖の山が良くなるには」という考えから、鳥栖市の森林整備に役立つ情報や提案を市役所・森林組合や林業普及指導員にされています。

こうしたことは、「林業会社が鳥栖市の森林

所有者の皆さんに支えてもらった。山の手入れで鳥栖市の森林所有者に恩返しをしたい。」との牟田さんの思いと重なる部分があります。

牟田さんは、10年以上にわたり鳥栖市河内町の区長をされておられ、毎年恒例となっている地域の林業まつりである「とすん河内」、「やまめの放流」活動及び「大山祇神社の紅葉のライトアップ」活動の代表として自ら提案発起して企画運営の前線に立って指導されてこられました。

これらの活動は、鳥栖市の恒例行事として定着しており、鳥栖市近隣の市町、県外からも多数の参加があり、地域振興の一役も担っています。

鳥栖市では、平成18年度から河内地区を中心とした範囲で「河内ダム周辺環境林」整備事業がスタートし、牟田さんは区長として地域の森林所有者に働きかけて、住民が山づくりについて話し合う地元説明会の開催や取りまとめに尽力しておられます。

鳥栖市河内地区は、牟田さんが林業会社を通じて森林整備に取り組んでこられた地域ですが、森林所有者が代替わりして境界がわからなくなった山や全く手入れがなされず放置されたままの森林が目立つようになりました。牟田さんは、長い間地域の森林所有者との付き合いを通して、当地区の山林の状況を理解されており、地域の山の生き字引きとして皆の期待を背負っています。

今年の2月に「さが22流域育樹祭in鳥栖」が鳥栖市の河内ダムで開催され、県内から多くの参加者を集めて盛況のうちに終わりました。

牟田さんにも、指導林家として、また区長として参加して頂きました。牟田さんは「これから地域の人たちと一緒に本格的に森林整備の活動に積極的に関わっていきたい」と抱負を語られていました。

(林業課 専門技術員)



# トピックス 佐賀県しいたけ品評会・展示即売会

## ○佐賀県しいたけ品評会

佐賀県の原木しいたけの生産量は、最近5箇年では生しいたけはほぼ横ばい、乾しいたけは最近の単価高の影響もあり、昨年は5.8トンで前年比160%と大きく伸びています。

しかしながら、依然として生産者の減少、高齢化により今後の生産振興に不安があることや輸入品の安全性の問題から、より安全指向になっている消費者ニーズに合った、商品性の高いしいたけ作りをしていく必要があります。このようなことから、原木しいたけの品質向上や安定的な生産振興を図ることを目的に、県では「佐賀県しいたけ品評会」を開催しており、3月7日に平成20年度第7回目の品評会を開催しました。



品評会での審査風景

## ○審査結果

約1時間に及ぶ厳正な審査の結果、以下の方々の受賞が決定しました。

### 生しいたけの部

最優秀賞 小松 武道 (唐津市)

優秀賞 井上 明男 (唐津市)

### 乾しいたけの部

最優秀賞 中山 民世 (唐津市)

優秀賞 佐藤 等 (神崎市)

## ○佐賀県原木しいたけ栽培研究会との連携

品評会の開催にあたっては、県産の原木しいたけについて、一般の消費者へのPR効果を高めるために、「佐賀県原木しいたけ栽培研究会」と県が連携し、品評会後に展示即売会を実施することとし、一般の消費者が多く集まる道の駅大和「そよかぜ館」にて行いました。

## ○県産原木しいたけ展示即売会

展示即売会では、佐賀県内のどこでしいたけが栽培されているのかがわかるしいたけ栽培マップや品評会で最優秀賞を受賞した生・乾しいたけの展示などを行い、多くの消費者に佐賀県でのしいたけ栽培の現状や品質の高いしいたけなどのPRを行いました。また、網焼きによるしいたけの試食コーナーもあり、子供をはじめ多くの消費者においしさを知ってもらいました。生・乾しいたけの即売では、めったに食べられないような大きな生しいたけが格安ということもあり準備した商品はあっというまに売り切れていました。

今後もしいたけ品評会と展示即売会の実施により、生産者、消費者が共に魅力ある取組みになればと考えています。

(林業課 林産振興担当)



網焼きによる試食コーナーには人だかりができるほどの人気



## トピックス

## 林業経営講演会を開催しました

3月25日(水)に林業試験場で熊本大学文学部の徳野貞雄先生を講師として迎え、林業経営講演会を開催しました。徳野先生は、農村社会学の専門で、九州各地の集落を回りT型集落点検という独自の手法でワークショップ活動を行い、後継者対策について斬新な考えを持って山村集落振興の指導を実践されておられます。



林業試験場での講演会の様子

講演会では、指導林家、林業研究グループ、市町、森林組合関係者60名の聴講があり、徳野先生の個性ある話で、参加者を引き込み興味深く大変有意義な講演であったと好評でした。

講演内容としては、「山村振興をどうとらえるのか」と「山村集落における後継者」についてでした。まず、冒頭で県や市町が行っている山村振興を取り上げ、意見として、『「農林生産物」を調べ、「農林産物」の生産振興を考え、数値目標を立てて、数字による成果を得ることを振興策だと思っていないか、どうして「どここの集落で〇〇さんがいてどういうことをやっている」といった具体的な情報を調べないのか、数字を並べた振興策ではなくて人の顔が見える振興策を考えてみてはどうか』と提案されました。カルガモ農法を実践されている農家の事例をあげて、小さな面積で米を作っとうまくやっている秘訣として「まず、売り先を確保すること」が必要であることを唱えられました。食べ物、人が一番求めているもので生産者が消費者の心をつかむ努力をすれば必ず売り先を確保することが可能である。そのことを示すために、「農業を理解してもらえる消費者」を考える指標として、「農の価値がわかる」と「支

払い」の関係の座標軸で4類型される消費者行動のパターンを紹介し、それによると75%以上の消費者は「農産物は国産のものがよく、できればそれを買いたい」と思っているとの結果でした。消費者の潜在意識として、国産や地域産のものをできれば使いたいとの考えがあり、その意識をどうつかむのかが大事であると強調されました。まず、「手始めに定額給付金を使って米1俵を買おう」と唱えてみればという話では、会場は大爆笑でした。

後継者対策で取り上げられたT型集落点検は、集落内の家族関係を詳細に調べ上げて、「10年後にこの集落はどうなっているのか」と集落の住民と一緒に考え、住民が自ら考えるワーキング型の調査で、「家族関係」を「人間関係資源」と捉えて集落の振興対策を考えていく手法です。

まず冒頭で、限界集落の定義が一人歩きしていることを話され、「集落には人が住んでいる。数字で輪切りされて集落が将来消滅するなど言ってはいけない。」と強調されました。農山村では、若者が離れてしまっている状況を嘆いているが、まず現状を受け止めることから始めること、「親子3代で5人以上の家族がいる家」がある集落があれば、その集落は生き残れると断定され、若者がいなくて「じいさんばあさん」だけの集落でもしっかり存在していることを強調されました。「農山村では、人が少なくなっているというが、こうしたところでも農地や山林といった資源がたくさんある。こうした財産を活かして集落を活性化できないか智恵をだすことが重要。決して悲観する必要はない。」と訴えられました。

講演では、ほかにもたくさんのお話を提供され、その全部を紹介することはできませんが、徳野先生の農山村の振興策や後継者対策の視点には人間の根源的な「家族関係」を振り返り、集落での人の営みの原点を追い求めているように感じました。私たちが、農山村振興を進めていくうえで大変考えさせられた講演会でした。

(林業課 専門技術員)



**林業  
試験場  
だより**

**平成21年度 林業試験場の試験研究の取組**



試験場では、佐賀県森林・林業に関して次のような試験研究を実施しています。

**【木材関係】**

県内の森林資源は年々充実してきており、スギ・ヒノキの人工林に占める51年生以上の森林の割合が1割を超え、今後も急速に高齢森林の面積が拡大することが見込まれ、生産される丸太の大径化が進むものと予測されています。このようなことから、大径材の乾燥技術について研究をしています。

また、木材需要拡大の一つの方法として、土木資材として使用されている木材の耐久性についても研究を続けています。

木材が腐朽するということは、廃棄される場合には有利な一面もあり、欠点ばかりではないのですが、木材を利用する場合、何年間保てるかは重要な因子であり、ややもすると腐朽するからという理由で利用が躊躇されていることが多いと判断されるからです。耐用年数を明らかにすることによって、利用促進を図ろうとするものです。



大径木材の人工乾燥試験

**【地球温暖化】**

これまでの精英樹は心材色や強度に優れた特性を持つものが選ばれてきましたが、この他にCO<sub>2</sub>の吸収量が格段に大きい次世代の精英樹の選抜を行うための研究を行っています。

また、二酸化炭素の元である炭素が森林土壌に炭素がどのくらい蓄積されているか調べております。これまでの調査で地上部の樹木内に蓄

積されている炭素と同等かそれ以上もの炭素が蓄積されていることがわかりました。



精英樹の採穂

**【環境保全】**

手入れの遅れた荒廃人工林を強度間伐することによって、自然の力（野鳥や動物による種子の散布、埋土種子の発芽等）によって低コストで広葉樹や下層植生を生育させ、森林の多面的機能の発揮が期待できる針広混交林へ誘導する研究を実施しております。

**【特用林産】**

珍しいキノコ（ムキタケ）の簡易ハウス栽培試験や虹ノ松原で生えることで知られているキノコ（ショウロ）の発生を増やす方法や今まで生えていなかったところで発生させるための試験、シイタケ害虫の生態解明等を実施しています。



ショウロ発生試験地の整備

以上のような研究を行っていますが、試験場には各種文献も揃っていますので森林林業に関連して不明なことが有れば試験場へご相談下さい。  
(林業試験場研究開発担当)



## 平成21年度 試験研究課題 一覧表

課題名	研究機関	研究目的・目標
1 針広混交林へ向けた広葉樹育成技術に関する研究	H21 ～ H25	<p>木材価格の低迷が長期化し森林所有者の林業経営に対する意欲の減退を招いたことにより、手入れがなされず放置された荒廃スギ・ヒノキ人工林が増えている。県では、佐賀県森林環境税を導入し、「荒廃森林対策」として、これらの放置荒廃林を強度間伐して針広混交林へ誘導しようとする試みを行っている。</p> <p>荒廃人工林を針広混交林へ広葉樹の自然導入により誘導する技術を開発し、荒廃森林対策に対応する。</p>
2 県産スギ大径材の乾燥技術に関する研究	H20 ～ H24	<p>県内の人工林は、長引く木材価格の低迷により、立木伐採が見送られ、樹木の径化が進んでいる。</p> <p>一方、大径材は乾燥に長期間を必要とするため、需要があっても、それに即応して乾燥材を供給することができない状況にある。</p> <p>品質の安定したスギ大径材の乾燥材を早期に生産・供給するため、大径材に対応した乾燥技術を開発する。</p>
3 次世代スギ・ヒノキ精英樹に関する研究	H19 ～ H25	<p>スギ・ヒノキの育種については、心材色や強度など主要材質特性のほかCO<sub>2</sub>の吸収源や花粉症対策に優れた特性を有する品種の開発が求められている。</p> <p>これまでの精英樹よりも一段と優れた次世代の精英樹選抜を行う。</p>
4 低コスト育林に関する研究	H19 ～ H25	<p>県では、多様な森林づくりとして広葉樹植栽を進めているが、こうした取り組みを推進するうえで、森林造成コストを低減させることが重要となっている。</p> <p>これに対応するため下刈省力化工法の検討や広葉樹植栽木の台切り試験を行い、有効な手法を開発する。</p>
5 特用林産に関する研究	H9 ～ H21	<p>特用林産物の生産販売は、シイタケなどをはじめとして中国から安い輸入品の流入により依然として厳しい価格競争のもとに置かれている。</p> <p>地域性・希少性の高い菌根性キノコ「ショウロ」の発生誘導試験や人工栽培試験（感染苗の作出等）やこれまで現場で選抜してきた新規性キノコ「ムキタケ」の優良菌株を用いた簡易施設栽培試験を行い、これらの生産技術の試験研究により特用林産物の生産振興を図る。</p> <p>また、生産者から要望の強いシイタケ害虫シイタケオオヒロズコガの生態解明と防除法の確立を図る。</p>
6 木質土木資材の耐久性と新たな防腐処理に関する研究	H14 ～ H23	<p>健全な森林の維持造成を図る中で、県産材の公共土木事業などにおける多角的利用の推進が求められている。</p> <p>これに対応するため木質土木資材の利用拡大に資する新たな防腐処理技術の検討や木質土木資材の経年的な耐久性調査を行う。</p>
7 森林吸収源インベントリ情報整備事業	H18 ～ H22	<p>平成17年2月に京都議定書が発効し、温室効果ガスの削減目標達成に向け、国際合意に対応した森林吸収量の科学的算定が緊急の課題となっている。</p> <p>県においても、H16年3月に佐賀県地球温暖化防止地域計画が策定され、森林吸収源としての機能が重視されており、森林における炭素動態計測に資する情報収集が重要となっている。</p> <p>本県の定点において森林土壌の炭素量等の調査・分析を行う。</p>



現場の顔

若い力で「太良町の山林」を守っています。



太良町森林組合 富永 司さん (20)

去年、太良町森林組合に入り作業班として太良町内の森林整備の仕事をしています。1年は、あっという間に過ぎた感じで、山仕事にも先輩方の優しい指導のもと慣れてきたようです。

まず、この仕事に就こうと思ったのは、高校の進路指導の先生から「地元で頑張るなら森林組合が一番いいところだ」と勧められたことです。高校の隣に森林組合がありますが、何気なく見ていた建物が先生の言葉がきっかけで急に身近に感じるようになったことを覚えています。イメージとして「山の仕事」は自然がいっぱいで楽しいところだと思っていました。この仕事をやってみて「そのとおりだ」と確信することができました。

入り立ての頃は、慣れない林業の専門用語に頭を悩ませていましたが、刈払い機、チェーンソーの取り扱いにも慣れて今ではすっかりこの仕事にはまっています。仕事ですのできついこともありました。夏の下刈りは新人の私にとって強烈な体験でした。夏の下刈りをどうにか乗り切れれば、どんな山仕事でも頑張ることができるときつい体験も自信につながりました。

今、一番気にしていることは、「人にけがをさせないこと、自分がけがをしないこと」です。安全に仕事をするには、人に一番迷惑をかけないことだとわかりました。



仕事をしてきて一番うれしかったことは、この1年間仕事中にしよっちゅう先輩から注意を受けたり、しかられたりしてどうにか頑張ってきましたが、最近仕事に慣れたこともあって先輩からの注意の言葉も少しずつ減ってきたように思えたことです。少しずつですが先輩たちと同じように仕事ができているのかなと感じています。



これから仕事をしていくうえでモットーとしたいのは、「基本に忠実に努力すること。危険な仕事と自覚し安全には十分気をつけること」です。組合の優しい先輩たちと一緒に太良町の山を守っていきたいと思います。

(林業課 専門技術員)



## がんばっています林業研究グループ

### 新しい林業研究グループの仲間が誕生しました。

#### 基山町林業研究会

平成21年3月7日に「基山町林業研究会」が誕生しました。基山町では初めての林業研究グループとなり、また、鳥栖管内でも現在唯一の林業研究グループです。このグループは基山町の小倉地区に拠点を置き、町内の熱意のある森林所有者を中心として11名で発足しました。会長の岸 徳美さんは、「地元の生産森林組合が熱心に後世に伝える森林づくりを行っている。それを見習って、これからは基山町の山を良くするための活動に積極的に関わっていきたい。」と抱負を語っていただきました。

基山町は「日本植林発祥の地」として林業と深い関わりを持つところです。この町の林業にとっての一番の問題は、間伐の遅れが目立っている山が増えてきたことです。これまでの基山町の森林整備は、一部の熱心な森林所有者と地元生産森林組合の活動が主で、山の手入れに対する意識は町の森林所有者全部には浸透していませんでした。

今回、基山町林業研究会ができたことで、山づくりに関心を持つ仲間が技術の研修や森林整備推進活動の場が生まれ、基山町の森林づくりの輪が広がることが期待されます。今年は、森林づくりモデル林を作り、研修会の開催や森林整備推進活動を行い、地区住民の森林整備に対する気運を高めていく計画です。

基山町林業研究会のこれからの活躍に期待したいと思います。

(鳥栖農林事務所 林務課)



基山町林業研究会のみなさん



# 林務関係職員的人事異動 (平成21年4月1日付)

## ☆☆県土づくり本部☆☆☆

### ○森林整備課

#### 【計画調整担当】

係長(森林管理担当係長)	小山田 順 二
副主査(唐津農林 副主査)	川内野 あい子
副主査(森林保全担当 副主査)	山崎 貴弘
嘱託(森林計画担当 嘱託)	杉原 森人

#### 【森林保全担当】

主査(森林管理担当 主査)	徳永 正年
主査(障害福祉課 主査)	山田 宏樹
主査(森林整備課 副主査)	後藤 敬三
行政技術員(農産課 行政技術員)	馬場 英樹
嘱託	前田 博明

#### 【治山担当】

係長(伊万里農林 係長)	井野 秀才
主査(佐賀県税 主査)	一ノ瀬 和彦
主査(森林整備課 副主査)	権藤 健太

#### 【森林管理担当】

係長(唐津農林 係長)	中倉 博之
-------------	-------

#### 【みどり推進担当】

副主査(唐津農林 副主査)	石田 秀明
技師(臨)	勝山 ゆかり

## ☆☆☆現地機関☆☆☆

### ○佐賀中部農林事務所

#### 林務課

#### 【治山担当】

技師(新採)	満行 貢樹
--------	-------

#### 【森林管理担当】

係長(鹿島農林 係長)	野田 房徳
技師(鹿島農林 技師)	生島 理絵

### ○鳥栖農林事務所

所長(鳥栖農林事務所 副所長)	深川 忠久
-----------------	-------

#### 林務課

主査(唐津農林 主査)	森 真児
主査(鳥栖農林 副主査)	小杉 茂

### ○唐津農林事務所

副所長(伊万里農林 副所長)	藤浦 正則
----------------	-------

#### 林務課

課長(鹿島農林 主幹)	福田 芳文
-------------	-------

#### 【普及担当】

係長(林業課 主査)	多久島 智徳
主査(森林整備課 副主査)	若宮 征喜

#### 【森林土木担当】

係長(森林整備課 係長)	一高 吉輝
主査(林業課 主査)	桑原 康成
主査(唐津農林 副主査)	宮島 義彰
副主査(森林整備課 副主査)	夏井 雄一郎

### ○伊万里農林事務所

#### 林務課

課長(武雄農林 主幹)	松本 一一
-------------	-------

#### 【治山担当】

主査(林業課 主査)	下野 智昭
------------	-------

#### 【森林管理担当】

主幹(森林整備課 主幹)	藤和 則
--------------	------

### ○武雄農林事務所

#### 林務課

主幹(林業課 主幹)	平川 昇
------------	------

副主査(林業課 副主査)	山下 史朗
--------------	-------

#### 地盤沈下対策課

副主査(鳥栖農林 副主査)	黒田 憲伸
---------------	-------

### ○鹿島農林事務所

#### 林務課

#### 【普及担当】

係長(唐津農林 係長)	島内 稔
-------------	------

#### 【森林土木担当】

係長(伊万里農林 主査)	橋口 功
--------------	------

主査(鹿島農林 副主査)	佐藤 繁和
--------------	-------

副主査(武雄農林 副主査)	川本 真也
---------------	-------

## ☆☆☆生産振興部☆☆☆

#### 林業課

課長(林業試験場長)	前田 美壽
------------	-------

副課長(国民健康保険課 副課長)	川浪 貢
------------------	------

#### 【総務担当】

主幹(林業課 係長)	上田 準治
------------	-------

主査(ダム管理事務所 主査)	松尾 浩介
----------------	-------

#### 【間伐造林担当】

主査(佐賀中部農林 副主査)	中村 和司
----------------	-------

技師(新採)	林崎 泰
--------	------

#### 【県営林経営担当】

主幹(鹿島農林 主幹)	野崎 寿穂
-------------	-------

主査(伊万里農林 副主査)	川棚 健雄
---------------	-------

#### 【林産振興担当】

副主査(武雄農林 副主査)	近藤 真奈美
---------------	--------

主事(新採)	池田 訓啓
--------	-------

## ☆☆☆現地機関☆☆☆

### ○林業試験場

場長(林業課長)	馬場 彰
----------	------

#### 【総務課】

課長(杵藤保健福祉事務所 課長)	山口 一行
------------------	-------

#### 【研究開発担当】

副主査(林業試験場 技師)	真崎 修一
---------------	-------

## ☆☆☆退職者(3月31日付け)☆☆☆

唐津農林 林務課長	前田 博明
-----------	-------

伊万里農林 林務課長	米岡 久儀
------------	-------

森林整備課 主事(臨)	松永 由美子
-------------	--------



## 佐賀の木材市況（平成21年1月～3月）

区分	樹種	規格・寸法		等級	1月		2月		3月	
		径(寸法) cm	長さ m		価格 円/m	増減 (対前月)	価格 円/m	増減 (対前月)	価格 円/m	増減 (対前月)
丸太	スギ	14～16	3	並	10,900	△500	10,200	△700	9,800	△400
		18～22		〃	11,200	△300	10,700	△500	10,000	△700
		24～18		〃	11,100	100	10,300	△800	10,000	△300
		30～		〃	12,500	600	10,600	△1,900	10,300	△300
		14～16	4	〃	10,600	△300	10,400	△200	9,400	△1,000
		18～22		〃	11,200	△400	11,000	△200	10,200	△800
		24～28		〃	11,800	△200	10,900	△900	10,800	△100
		30～		〃	11,700	△900	11,500	△200	10,700	△800
		14～16	6	〃	14,300	300	14,700	400	13,600	△1,100
		18～22		〃	15,200	600	15,100	△100	13,900	△1,200
		24～28		〃	17,000	3,300	16,000	△1,000	15,000	△1,000
		30～		〃	20,000	△13,000	20,000	0	21,000	1,000
	ヒノキ	3	14～16	〃	14,100	△1,300	13,200	△900	13,100	△100
			18～22	〃	15,300	△1,000	14,300	△1,000	14,100	△200
			24～28	〃	16,100	△1,800	15,000	△1,100	13,700	△1,300
			30～	〃	23,500	△18,000	25,000	1,500	25,000	0
4		14～16	〃	21,000	300	18,200	△2,800	17,500	△700	
		18～22	〃	19,400	200	16,700	△2,700	17,500	800	
		24～28	〃	19,000	△3,100	16,700	△2,300	20,200	3,500	
		30～	〃	28,500	△6,300	22,200	△6,300	35,000	12,800	
6		14～16	〃	24,400	△2,400	24,000	△400	24,000	0	
		18～22	〃	22,800	△2,300	23,300	500	22,000	△1,300	
		24～28	〃	23,000	△27,000	20,000	△3,000	23,000	3,000	
		30～	〃	65,000	△25,000	28,000	△37,000	30,000	2,000	
製材品	スギ	10.5×10.5	3	特1等	30,000	0	30,000	0	30,000	0
		12.0×12.0		〃	30,000	0	30,000	0	30,000	0
		10.5×10.5	4	〃	24,000	△3,000	23,000	△1,000	23,000	0
		12.0×12.0		〃	24,500	△2,500	23,000	△1,500	23,000	0
	ヒノキ	10.5×10.5	3	〃	62,500	0	62,500	0	62,500	0
		12.0×12.0		〃	62,500	0	62,500	0	62,500	0
		10.5×10.5	4	〃	57,500	0	57,500	0	57,500	0
		12.0×12.0		〃	57,500	0	57,500	0	57,500	0

スギ・ヒノキ丸太：佐賀木材(株)、(協)唐津木材市場、(株)伊万里木材市場、佐賀県森林組合連合会共販所の平均価格  
スギ・ヒノキ製材品：(株)伊万里木材市場

**表紙** 表紙の建物は、富士町の菖蒲公民館です。去年の11月に竣工しました。現在、佐賀市富士町菖蒲地区の集会施設として利用されています。公民館は地元のスギで建てられており、床、腰板、壁、引戸等の内装部材にも地元産のスギが随所にふんだんに使われています。新築の公民館は、まだスギの香りがほのかに残っており、柔らかく暖かみのあるスギの板の触感と合わさって落ち着いた雰囲気醸し出しています。(林業課 専門技術員)

編集  
後記

<http://www.pref.saga.lg.jp/>

最近の経済状況のあおりを受けて、木材の流通の動きが芳しくありません。木材市場ではスギの価格が1万円割れという見出しで木材新聞の紙面を飾っていました。せっかく国産材の需要が回復してきたという明るい兆しも今の経済不況の大波に飲み込まれてしまった感があります。林業関係者にとって我慢はいつまで続ければいいのかわからなくなってきました。

こうした状況の中でも森林・林業の現場で頑張っている人のビタミン剤になるべく最新の森林・林業の情報やできるだけ明るい話題を提供していきたいと思います。(T.F)